2026年11月20日

各　位

会　社　名　株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名　取締役代表執行役社長兼CEO　イン・ルオ
（コード番号：2160　東証グロース）
問合せ先　執行役CSO　兼古　拓也
（TEL. 03-6214-3600）

ジーエヌアイグループ、設立25周年 創薬から事業化へ、世界をつなぐ次の成長ステージへ

～グローバルネットワーク、各市場への深い理解 、機動力を生かし、
革新的な治療の選択肢を患者の皆さまへ～

株式会社ジーエヌアイグループ（東証：2160、以下「当社」）は、2026年11月20日に設立25周年を迎えました。2001年の設立以来、当社は遺伝子解析から創薬へと事業を進化させ、中国での医薬品商業化、米国での研究開発・メドテック事業、日本での事業基盤強化を重ねてきました。2026年にはあゆみ製薬ホールディングス株式会社（以下「あゆみ製薬」）を完全子会社化し、日本における製薬事業の基盤を拡大しました。日本・中国・米国・オーストラリアを結ぶ事業基盤を生かし、次の成長段階を目指します。



国内外のグループ会社経営陣が日本に集結したグループ経営戦略会議を実施（2026年10月開催）

25年の歩み　変化を重ねて築いた事業基盤

当社は2001年11月20日、Gene Networks, Inc.として東京・渋谷区で設立されました。当初は遺伝子解析技術を活用した創薬を目指していましたが、2008年には事業の軸足を本格的な創薬へと移しました。2014年には中国で特発性肺線維症（IPF）治療薬「アイスーリュイ」の販売を開始し、研究開発を商業化へつなげました。その後、米国の創薬・メドテック事業基盤を拡充し、2026年には「カロナール」を有するあゆみ製薬を迎えることで、日本での製薬事業の存在感を高めました。

製薬・創薬・メドテックの3事業を展開

【製薬事業】

日本では、あゆみ製薬が疼痛領域、リウマチ領域、骨粗鬆症領域の医薬品を展開しています。
中国では IPF 治療薬「アイスーリュイ（ピルフェニドン)」を販売しています。B 型慢性肝炎に起因する肝線維症の治療薬候補「F351」は、中国において新薬承認申請の審査中です（2026年末もしくは2027年第1四半期に承認審査結果受領の可能性)。

【創薬事業】

独自の標的タンパク質分解誘導（TPD）技術を活用し、がん・炎症・疼痛などの領域で次世代治療薬の開発を進めています。

【メドテック事業】

米国では生体材料の製造・販売を展開しています。日本では、2025年12月に歯科技工所としては大手である株式会社 ZOO LABO をグループに迎えました。

2026年、日本の事業基盤を強化

あゆみ製薬の参画は、日本における販売基盤と事業運営の経験を当社グループにもたらす重要な節目となりました。これにより、当社の開発品に加え、海外の医薬品・バイオシミラーなどの日本市場への導入・展開を検討・推進する基盤が強化されました。研究開発成果を、各市場の医療ニーズと結び付けていく取り組みを加速します。

ジーエヌアイグループならではの強み　グローバルな連携力 × 各市場への深い理解 × 機動力

世界各地に拠点を持つこと自体が、当社の競争優位性ではありません。各市場で築いた事業基盤と信頼関係を、国境を越えた研究開発・製造・販売のネットワークと結び付け、迅速に意思決定できることが当社の強みです。地政学的な緊張、規制・医療制度の違い、市場環境の変化が複雑になる中、地域ごとの実情を理解しながら柔軟に連携できる企業であることが、一層重要になると考えています。
当社は、この強みを生かして日本・中国・米国・オーストラリアの事業基盤の連携を深め、各国・地域の規制に則りながら、革新的な医薬品や治療の選択肢を必要とする患者の皆さまへ届けることを目指します。

代表執行役社長兼CEOイン・ルオ コメント

「設立25周年を迎えることができたのは、患者さま、医療関係者の皆さま、株主・投資家の皆さま、そして社員の皆さまのご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。
この25年間、私たちは変化を恐れず、科学の可能性を患者さまの新しい治療選択肢につなぐために歩んできました。創薬への事業転換、医薬品の商業化、そして各地域における事業基盤の構築。その一つひとつが、今日のジーエヌアイグループを形作っています。あゆみ製薬グループを迎えた2026年は、私たちにとって次の成長ステージの出発点です。グローバルな視野とネットワーク、地域に根ざした深い知見と信頼関係、そして変化に対応する柔軟な機動力を生かし、国境や市場の壁を越えて新しい医薬品と治療の選択肢を世界の患者さまへお届けできるよう、挑戦を続けてまいります。」

■沿革

年	主な出来事
2001年	Gene Networks, Inc.として設立（東京・渋谷区）
2002年	上海ジェノミクスと共同研究を開始
2005年	上海ジェノミクスを子会社化（のち2007年に完全子会社化の契約を締結）
2007年	8月、東京証券取引所マザーズ市場（現・グロース市場）に上場
2008年	イン・ルオが代表取締役社長兼CEOに就任。遺伝子解析から本格的な創薬へ事業の軸足を移す

年	主な出来事
2014 年	中国で「アイスーリュイ」の販売を開始
2017 年	米国の Berkeley Advanced Biomaterials（BAB）を子会社化
2018 年	米国で Cullgen（現・当社連結子会社）を設立
2021 年	「F351」が中国当局の「画期的治療薬（Breakthrough Therapy）」制度に基づく指定を受ける
2023 年	当社連結子会社の Gyre Therapeutics が米国ナスダック市場に上場（NASDAQ:GYRE）
2025 年	・「F351」の第 3 相臨床試験（中国）で、主要評価項目を達成した旨を発表。 ・ZOO LABO を子会社化
2026 年	・3 月、「F351」の新薬承認申請（NDA）を提出（5 月に正式受理） ・7 月、あゆみ製薬ホールディングスの全株式取得を完了 ・10 月、TOPIX の構成銘柄に算入。11 月 20 日、設立 25 周年

ジーエヌアイグループについて

ジーエヌアイグループは、日本に本社を置き、日本・中国・米国・オーストラリアに拠点を展開するグローバルバイオファーマ企業です。創薬から医薬品の開発・販売、およびメドテック事業をグループ一体の事業として展開しています。当社グループは、独自の創薬プラットフォーム技術を用いた標的タンパク質分解（Targeted Protein Degradation：TPD）による革新的な創薬・基礎研究から、グローバルな臨床開発までを自社グループ内で完結できる体制を敷いています。パイプラインには、主要開発品である「F351」（現在まで有効な治療薬が存在しない、B 型慢性肝炎に起因する肝線維症の治療薬候補）をはじめ、線維症、がん、炎症性疾患、疼痛などの幅広い領域が含まれます。さらに、原材料の製造から製品の生産までを自社で担う安定的な生産体制、医療機関を網羅する自社 MR（医薬情報担当者）などの強固な販売ネットワーク、および受託製造サービスを有し、次世代の事業基盤を強固に構築しています。

ジーエヌアイグループについて：https://www.gnipharma.com/